

**2016年10月28日開催
2016年9月期 決算説明会 における主な質疑応答内容**

この質疑応答集は、10月28日(金)に開催した決算説明会(アナリスト・機関投資家向け)にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1: 中期の流通総額目標が1,000億円ということだが、1,000億円になった時のクロスボーダーの利益はどんなイメージか。

クロスボーダー部門の収益は、流通総額の増加に伴い利益率を高めていく方針です。当社が蓄積している「どの国で誰がどんな商品を購入しているか」のデータをもとに商材を根元から押さえていくなど、さらに収益率を高める施策に取り組んでいく予定です。

Q2: 現時点の直接的な競合、間接的な競合で、将来脅威になるところはあるか。

各事業分野で考えるとそれぞれの直接的な競争相手はいますが、BEENOSグループ全体で見ると、直接の競合はないと考えています。間接的な競合という意味では、さまざまな企業が存在します。例えば世界的な大手総合マーケットプレイスでは、アジア全域で、投資も含め事業のネットワークを広げています。当社も出資しているアジアのオンラインマーケットプレイスの成長を支援しながら、事業でも連携し強いネットワークを構築していきたいと思っております。

Q3: インキュベーション事業の投資先は全体で何社あるか。そのうちインドには何社出資しているか。またインドの投資先候補企業はどのくらいあるのか

全体で約80社です。新興国の他にアメリカや国内の企業への投資も行っており、それぞれの出資額やシェアには違いがあります。アメリカへの投資は新しいインターネットビジネスの情報収集の側面が強く少額投資、そのため投資社数は多いです。インドやアジア新興国に関しては、事業ネットワークの強化と投資のパフォーマンスを狙っていますので、一社当たりの投資金額とシェアは大きくなっています。そのため社数はアメリカでの投資に比べて少なくなっています。インドへの投資は期末現在で8社です。候補先企業数については潜在的な候補者数は多くありますが、社数については回答を差し控えさせていただきます。

Q4: クロスボーダー部門の今期の為替変動による業績への影響はどのように考えているか。

基本的には為替変動分商品単価が下がり、流通総額は為替変動分影響を受けます。前期のドル円の期中平均レート111円に対して、今期の計画は前半103円、後半95円を前提として見積もっています。当社は輸出と輸入の双方向の事業があり、それによって為替変動のリスクを相殺していますが、今のとこ



る輸出の方がボリュームが多いため、円安の方が流通総額と売上高は伸ばしやすい状況にあります。その意味では計画は保守的に見積もっていると考えています。一方で円高が計画以上に進行したとしても、新しいサービス等新たな収益源の確保を進めていますので、流通総額の減少に比べて売上への影響は限定的と考えています。

Q5: クロスボーダー部門は、前期は円高で流通総額が伸び悩んでも、売上は増加したのに対し、今期は流通総額が減少し、売上も減少する計画になっているが違いがあるか。

前期に売上高を増収にできた要因は、前半が比較的円安傾向にあったためです。今期は期初から昨年通期平均に比べて円高、下期はさらに円高が進行する前提で計画しているため売上高が減少すると計画しております。

Take Rate (売上高/流通総額) は今期の方が上昇すると見ております。

Q6: クロスボーダー部門は、前期に手数料体系の見直しがあったが、今期はどうか。

今のところ手数料改定は予定していません。

Q7: 今期の計画が経常利益で増益となるのに対して、当期純利益は減少する理由ななぜか。

主に3点あります。

- ① 前期までは税務上の繰越欠損金との利益の相殺が多かったが、残り約5億円となっており、今期で使い切る想定をしていること。
- ② 連結納税グループと非連結納税グループの利益構成の違いを想定していること。
- ③ デファクトスタンダードの上場に伴う公募増資によって、当社の出資比率が低下したことに伴う非支配株主に帰属する当期純利益の増加があること。

これら現時点で想定しうる前提をもとに親会社株主に帰属する当期純利益を見込んでおります。

Q8: 今期の営業投資有価証券の評価損は見込んでいるか。

前期の評価損の金額は3億円弱です。今期も一定額見込んでいますが、前期よりは減少します。

Q9: デファクトスタンダード以外のグループ会社について上場の可能性はありますか？

今のところそういう予定はありません。将来的には、会社の成長に上場が必要だと判断されれば、都度選択肢の一つとして検討していきたいと思っております。



Q10: マーケットプレイスの今後の展望について、世界的な大手総合マーケットプレイス企業が各国のマーケットを浸食してきているようだが、インドをはじめ各国の専門型のマーケットプレイスはどうなっていくと見ているか。

各国共通で、世界的な大手総合マーケットプレイスの拡大が続いています。当社としては、大手総合マーケットプレイスが攻めていない領域のバーティカルな専門型マーケットプレイスにも注力していく必要があると考えています。当社のインキュベーション事業での投資領域もそのようになっています。

以上